

令和3年度 2回会津若松市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和4年1月20日(木)
開会 午前10時20分 閉会 午前11時50分
- 2 場 所 教育委員会室(市役所栄町第二庁舎2階)
- 3 出席者 市長 室井照平
教育長 寺木誠伸
委員 秋月淳子
委員 林健幸
委員 秋山理恵
委員 松本健男
- 4 事務局出席者 教育部長 山口城弘
副部長兼教育総務課長 山口勝彦
生涯学習総合センター所長 鈴木茂
学校教育課長 安齋敦
文化課長 富樫明俊
スポーツ推進課長 江川忠
教育総務課主幹 齋藤純子
〃 副主幹 山内斉
学校教育課総務主幹兼指導主事 鈴木智浩
〃 主幹 田場川貴光
〃 主幹兼指導主事 鈴木祥晃
文化課主幹 三浦裕子
スポーツ推進課主幹 岩橋健紀
- 5 協議題 (1) 会津若松市教育大綱・教育振興基本計画の中間見直しについて
(2) あいづっこ学力向上推進計画の中間見直しについて
(3) 学校のあり方について
(4) 美術品等の常設展示スペースの検討について
(5) 鶴ヶ城ハーフマラソン大会について
(6) その他

6 議事の概要

○開 会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 秋山理恵委員、松本健男委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長> 本日の協議題は、次第にございますとおり「教育大綱・教育振興基本計画の中間見直し」をはじめ5件について、ご意見等をお聞かせいただければと考えております。

それでは「会津若松市教育大綱・教育振興計画の中間見直しについて」、事務局から説明をお願いします。

<事務局> 「会津若松市教育大綱・教育振興基本計画の中間見直しについて」説明

〈議長：室井市長〉 ただ今、事務局より説明がありました。

教育大綱の策定に関する内容については、法律により総合教育会議において協議することと規定されておりますので協議題として掲げておりますが、既に教育委員会定例会や庁議において協議されている内容のものであります。

改めて、中間見直しについて、ご質問などございましたら発言をお願いいたします。

(特になし)

〈議長：室井市長〉 特にご意見がなければ次に進みます。

でそれでは次の協議題「あいづっこ学力向上推進計画の中間見直しについて」に移ります。

この計画は「教育大綱・教育振興基本計画」を踏まえて、学力のさらなる向上を計るために策定されたものであり、教育大綱と同様に中間見直しを行うものです。

それでは、事務局より説明をお願いします。

〈事務局〉 「あいづっこ学力向上推進計画の中間見直しについて」について説明

〈議長：室井市長〉 ただ今、事務局より説明がありました。

あいづっこ学力向上推進計画の中間見直しについても、既に教育委員会定例会や庁議において協議されたものとなります。

改めて、中間見直しについて、ご意見、ご質問などございましたら発言をお願いいたします。

(特になし)

〈議長：室井市長〉 私から質問してもよろしいでしょうか。

「活用力育成シートを活用して」とありますが、このシートについて具体的にどのようなものなのか教えてください。

〈事務局〉 福島県教育委員会で作成しているもので、年2回程ダウンロードできるようになっております。本市では中学校の学力に課題があることから、全生徒分を印刷して学校に配布し取り組んでおります。

〈議長：室井市長〉 教科はどうなっているのか。

〈事務局〉 県では主要5教科について作成しており、本市では全ての教科を配布して活用しております。

〈議長：室井市長〉 評価や活用頻度はどのような状況なのか。

〈事務局〉 これまでは基礎基本的な部分を繰り返し学習するようなプリントでしたが、応用力が必要となるような学習プリントになっております。プリントの枚数は、それほど多いものではないので、授業で使ったり、朝の自習時間や家庭学習、先生によっては問題の出題傾向などを把握し授業に活かすなどしております。

〈議長：室井市長〉 委員のみなさんからは何かありませんか。

〈教育長〉 昨日、市独自に作成しているチャレンジテストの印刷が終わり、現在配布しているところで、来週あたりから各校において実施することになっております。

また、他市町村にも問題を提供しており、現在8市町村に提供して昨年度よりも提供自治体数が増えているところです。

〈議長：室井市長〉 先生方がテスト問題を作られているということで、指導のポイントなどを抑えた授業を実施できていることと思います。ありがとうございます。

〈議長：室井市長〉 それでは、次の協議題に移ります。
「学校のあり方について」であります。特に大戸地区においては児童生徒数が少ない状況となっており、このまま減少していきまると、複式学校が増え教員が減らされる等の課題も出てきております。そのような状況を踏まえて、小規模特認校制の導入について検討を進めており、ご意見等をいただければと考えております。
では、事務局より説明をお願いします。

〈事務局〉 「学校のあり方について」説明

〈議長：室井市長〉 学校のあり方について事務局より説明がありました。
大戸地区学校運営協議会では、今後の学校のあり方として特認校制の導入を視野に入れて活動を進めているとの説明があったところです。また、特認校制についての勉強会や先進地視察なども予定しているようですが、児童生徒数が減少に伴う様々な課題を踏まえ、特認校制の導入について、ご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

〈林委員〉 河東地区では義務教育学校化を進め、大戸地区では特認校化として進めているところですが、大戸地区の方々の特認校制度について理解していても、他の学区の地域の方々の特認校制というものを知らないでいると思います。他の学区の方々への周知は、どのぐらいのタイミングで考えているのか。
また、特認校になってからある程度の期間をかけないと、子どもを預ける保護者の方も不安だと思いますので、特認校制を導入して生徒が集まらないからといってすぐにやめてしまうのではなく、長期的に構えて根付かせていくことが必要だと思います。

〈議長：室井市長〉 事務局の考えはいかがでしょうか。

〈事務局〉 まず、他の学区への周知という部分ですが、今後、学校のあり方懇談会や通学区区域検討委員会を開催することになっております。学校のあり方懇談会におきましては、各学校運営協議会の代表の方と学校長なども集まっておりますので、会議のなかで、現在、大戸地区の小規模特認校制の導入について検討している事を周知していく予定でおります。今後、それを受けて通学区区域検討委員会で小規模特認校制の導入が適当であると判断していただいた際には、何年度から導入するかも含めて検討していくこととなります。

〈林委員〉 継続性がどれだけ保てるかということもあるかと思います。

〈事務局〉 特認校にしたからといって、どれだけの生徒が集まるのかという部分については何とも言えない状況です。大戸小中学校においては、それに向けて魅力ある学校として発信できるように進めてまいりたいと考えながら準備を進めてまいります。

〈松本委員〉 西郷村の川谷小中学校では学区外からの通学者が多く集まっているようですが、何か理由があったのか教えてください。また、学校運営協議会でも大戸地区では目標がしっかりしており進んでいるのかと感じました。大戸に学校が無くなると困るからといったような都合だけで進めてもうまくいかないと思うので、学区外

からも通いたくなるような、しっかりした魅力をつくっていかないと生徒が集まらないと思います。西郷村では大成功した事例かと思しますので、理由が分かれば教えてください。

〈事務局〉 理由としては、まず、特別な支援が必要な生徒が多く、小人数ということもあり手厚く支援を受けられるといった理由があるようです。それから、人数の多い学校の環境よりも、小人数の環境を求めている保護者や子どもたちが多いということもあると思います。さらには、兄弟関係でお兄さんやお姉さんが通っていると下の子も入学するといった傾向があります。また、近年、西郷村に移住される方も増えていることなども影響していると考えております。

〈松本委員〉 大戸地区でも何らかの魅力が必要だと思うので、保護者が何を求めているのかなどを、これから探っていっていただきたいと思います。

〈秋山委員〉 今の段階で大戸地区に通わせたいという希望者が、どれくらいいるのかといった把握はしているのでしょうか。

今後、考えられる課題として、学区外から通学するのに保護者が送迎するのかスクールバスなどを出せるのかといった選択肢になってくるとは思います。現時点ではどのような考えなのか。

〈事務局〉 ニーズ調査はまだ行っていない状況ですが、これまでも人数が少ない学校を希望して通っているケースがあります。また、通学についての課題も検討していかねばならない内容だと捉えております。他市町村の事例をみると、原則保護者負担ということで、保護者に送迎をいただいているケースが多いようで、おそらくそのようになるのではないかと考えております。

〈秋月委員〉 今も特色のある教育活動をされておりますが、現在、大戸地区にいる子どもたちにも、受け入れる側のメリットというのが必要と思うので、市内の学校の中でも英語指導に力を入れているとか、何か特出したメリットがあれば大戸地区まで通う子どもが増えると思います。是非、検討していただきたいと思っております。

〈事務局〉 学校の魅力づくりについては、小中の校長を含めた学校運営協議会で、いろいろと練っているところであります。今後さらに勉強会なども行い、整理し、勿論現在の教育活動もかなり素晴らしい部分があるので、それらを伸ばしていければと考えているところです。

〈議長：室井市長〉 戊辰150年の際に、大戸小の児童が作文を書いてくれまして、大戸地区をもっと元気になりたい。人口を増やしたい。といった内容の作文でした。行政としても、全体で進めていかなければならないと感じております。

〈教育長〉 委員からいろいろなご質問や意見を出していただいて、自分たちの都合で進めていいのかという意見も、これから学校のあり方懇談会や通学区域検討会でも出てくるものだと捉えております。特色ある学校づくりを進めるのであれば、市内全域を自由学区にしてしまえばいいのではないかと考えた方も出てくるが、そうなってしまうと毎年児童生徒数の入れ替わりが発生し、教職員の定数が変わって教員の割振りができなくなることになるので、自由学区はできない。子どもたちが減少しているのであれば学校を統廃合してしまえばいいという考えもあるが、そうなった場合、地域のコミュニティをはじめ、地区そのものの存続も脅かすものになってしまいます。あれだけ広い地区が活気がない消えていく地区になっていってしまう。そこまで考えていかなければならないと思います。特認校というのは、将来、義務教育学校に変えていくためのひとつの選択肢だと思います。特認校にして

いたから義務教育学校として生き残る道もあるので、選択肢を増やすという意味では大事な取組だと思っています。ICT教育とか英語教育など、特色を出していくことを考えていきたい。

<議長：室井市長> 特色ある、魅力ある学校として発信していくことが大事なのかなと思います。

他になればそれでは「美術品等の常設展示スペースの検討について」の協議題に移ります。

事務局より説明をお願いいたします。

<事務局> 「美術品等の常設展示スペースの検討について」について説明

<議長：室井市長> 美術品等の常設展示スペースの検討について事務局より説明がありました。ご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

<松本委員> なかにお美術館は、非常に素晴らしい企画だったと思います。来場者の感想もとてもいい内容でした。継続していくのは大変だかと思いますが続けていただきたいと思います。しかし、同じことを繰り返してもマンネリ化してしまうし、新しい企画も次と簡単にできるものではないと思うので、展示方法を含め、これから計画していくうえでは、長期的に見ていかなければならないと思います。

<事務局> ご指摘の通りであります。我々も関わっていただいた専門家の方々、団体のみなさんの中も、今回の取組は第一歩だと考えており、継続していくのが大事だと捉えております。

検討部会で今後どうしていくのかを専門家の方も含めて検討していきたいと考えています。今回の企画の議論のなかでも、美術館はすぐには建てられない状況ですが、美術館的な場所があれば、いろいろな事ができるのでは、活動できるのではないかとということで、そういったことを継続していきたいと考えております。

<秋山委員> 美術に親しむ入口として、とてもいいと思いました。今回は七日町で実施しましたが、観光客の方もたまたま通りかかって気軽に美術に触れることができ、市民の方にも親しみやすかったのではないかと思います。建物を建てるより身近に感じていただくことが必要だと思いました。ひとつ気になったのかアンケートで「不満だった」と回答したものはどのような理由だったのか教えてください。

<事務局> 不満の意見としては、駐車場が狭くて4台しか停めることができないことでした。そのため近隣の有料駐車場を利用してもらうしかなくご不便をかけたことが不満の理由となっております。今回のテスト的な開催を踏まえて、次回は他の場所で開催したらどうかという意見もいただいておりますので、検討部会で考えてまいります。

<林委員> 七日町での開催を常設とするものではなく、今後、実行委員会でいろんな場所をまわって開催するという認識でよかったか。

<事務局> 検討部会の中では、七日町に決めるというのではなくて、どこかの場所で実施してみましようというところから始まっており、今回は七日町で開催させていただいたものです。今回の開催結果を検証して、今後の議論でまた七日町で開催するとなれば、今後も七日町で開催する可能性はあります。

<林委員> 場所を変えることは、非常にいいことだと思います。場所の雰囲気によって作品の魅せ方なども工夫できるし想像力なども広がるかと思います。開催にあたっ

て実行委員会というような組織は既にできているのか。

〈事務局〉 今年度は、まちなかアートプロジェクト実行委員会の中に検討部会をつくっており、常設展示スペースの検討ということで検討を始めたものですが、今後も同様の組織で実施していくのか、組織を変えて進めた方がいいのかも含めて議論してまいります。

〈林委員〉 固定の展示スペースも、それはそれでいい部分もありますので、どちらがいいのか部会で内容を検討していただければと思います。常設展示場がひとつあって、その他に移動展示があるような体制がとればなおいいのかと思いました。

〈事務局〉 常設展示スペースの設置について要望はいただいており、固定で実施するという選択肢もありますので、時間をかけて検討してまいりたいと思います。

〈秋月委員〉 七日町で開催したなかにわ美術館を見に行きましたがとても良かったと思います。常設されることにも意味があるかと思いますが、移動展示については、市民でもなかなか足を運ばない所に足を運ぶきっかけになると思います。しばらくは展示スペースを移転しながら実施してみて、市民の方にとってより美術館が身近なものになればいいと思います。

〈事務局〉 本日いただいた意見を検討部会にもお伝えいたします。何らかのかたちで美術品の展示活動は続けていきたいと考えております。

〈議長：室井市長〉 郡山市のように美術館をつくって国内外の有名作家の展示ができればいいのですが、セキュリティを含め建物の維持管理、学芸員の配置など、非常に高額な費用がかかるので本市では実現できなかった経過があります。美術館の意義を考えて、まずは身近なところに展示して、みなさんに作品を見てもらうということから始めたもので、非常にいいなと感じました。建物を建てなくとも、作家が自身の作品の展示スペースを確保できれば意義はあるのかなと感じています。

また、多くの人に見てもらえるよう作家とも向き合いなが進めていかないと続かないのかと思います。作品が販売できることも考えていかないと創作活動が続けられないと思いますが、行政としては作品の販売はできないので、そういったことも考えて、また、学芸員のような方がディレクターとなって様々な声をまとめていける組織づくりも必要なのかと思います。なんとかいいかたちに向けて進めていければと思います。

〈教育長〉 美術館建設の要望から長い年月を経て昨年実施できた「なかにわ美術館」は、大きな一歩だと考えています。まちなかアートプロジェクトの中で、いろんな場所を借りて回遊しながら街並みと美術品の展示の両方を楽しむことができる回遊の拠点が重要だという考え方で、今回、チャレンジしたものです。最初としては成果も課題も大きかったと思います。今後どうしていくかについては、回遊できるような場所での開催を積み重ねていければと思いますので、どうか委員の皆様にもご意見をいただければと思います。

〈議長：室井市長〉 新庁舎にも作品を預けたいといった申し出があるので、人に見ただけの工夫も考えていきたい。展示する場合、管理面でも注意しなければならないところもありますが、市民の方々に見ていただくスペースのひとつとして考えていきたいです。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

それでは「鶴ヶ城ハーフマラソン大会について」の協議題に移ります。

事務局より説明をお願いいたします。

〈事務局〉 「鶴ヶ城ハーフマラソン大会について」説明

〈議長：室井市長〉 鶴ヶ城ハーフマラソン大会について事務局より説明がありました。おそらく来年度の大会においても感染症対策を講じながらの大会運営となり、様々な工夫をしながらの運営になるかと思えます。ご意見、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

〈秋山委員〉 令和4年度の参加定員は5,200名とありますが、以前は9,000名の申し込みがあったとのことで、申込者が定員より多い場合には抽選になるのか。

〈事務局〉 定員をオーバーした場合は先着順としております。インターネットによる申し込みを行っており、先着順で定数まで達すると自動的に申し込みができなくなります。

〈秋月委員〉 コロナの影響を考えての5,200名の定員ですが、仮に今後コロナが落ち着けば、途中で定員枠を元の定員の9,000人に戻すといった対応はあるのか。

〈事務局〉 4月からは募集を開始します。それまでに募集要項を決定しなければならない関係があるので、令和4年度については、今後のコロナの状況に関わらず定員は5,200名までとします。

〈秋月委員〉 仮に感染症の状態が落ち着いた場合に、せっかくコロナが回復して、家族などで参加したい方が参加できないのは、正直なところ勿体ないなという気持ちがありました。

〈事務局〉 感染症の影響で2年間、開催を中止してきたこともあり、3年ぶりの開催でスタッフの体制としては脆弱な状態になっていることが予想され、急に定員を増員とした場合、運営スタッフ側での対応も混乱することが心配されますので難しい面もあると考えております。

〈林委員〉 運営スタッフについては、公募でスタッフを募集しておりましたか。仮に定員に達してしまい選手として参加できない方がスタッフとして参加したいという申し出があれば、それも可能なのか。

〈事務局〉 スタッフとして参加したいといった希望があれば参加可能です。運営スタッフは、できるだけ多くの人数が欲しいです。

〈松本委員〉 人数が増えてきた中でコロナで中止になってしまったのは残念と感じている。市民の方と話をしても、必ず鶴ヶ城ハーフマラソンの話題が出るぐらいに定着しており、楽しみにしている方が多くなっているので、選手として参加することをはじめ、スタッフの話もそうですが、何らかのかたちで参加したい方が増えていきます。今後も、たくさんの市民の方々を巻き込みながら、1万人を目標として開催できる日が来ることを待ち遠しいと思っています。

〈議長：室井市長〉 開催にあたっては、陸上競技連盟とも協議しながら進めていっていただきたいと思います。今年は自身も参加できるように、早くコロナが収束することを願います。
教育長からも最後に一言お願いいたします。

〈教育長〉 企業や市民の皆様のお力をお借りして、ここまで大きくしてきた大会なので、私としては、1日も早く定員1万人を目標に開催できるようにしたいと思います。これまで楽しみにして何回も参加されてくださった方も、定員切られてしまうのは非常に可哀そうなことなので、早くコロナが落ち着いて元に定員を戻せればと思います。これまで支援してくださった方々の思いを大事にしながら、よりよい大会にしていければと思っています。

〈議長：室井市長〉 それでは、本日の全ての議題についての協議が終わりましたので、閉会といたします。

○閉 会